

視聴覚教材

No. 118

発行日
60.12.2発行
岡崎市 AVL編集
広報委員会

にであつことがある。

視聴覚教材の活用

畔柳正夫

在学習指導全般において、視聴覚教材が重視される基本的な理由である。

今さら視聴覚教材・教具の活用といえば、何か時代おくれの感があると思われる人があるかもしれないが、現場のようすをじっくりと観察していると、今一度、初心にかえって、取り組む必要があると思う。日々の授業実践や授業研究の中で、視聴覚教材・教具を積極的に取り入れて、学習指導の改善・深化に地道な研究を進めている人は多い。なかには、安易な考え方でもって、向ん

どなくそこにテレビがあるから使ってみようという人を見かけることがある。こうした人にとって、機器の正しい使用法・提示の方法に問題がある。たとえば、TPの内容がある授業の内容に適していないとか、テレビを視聴させていたる時、他の事に熱中している人、視聴後は、「感想をかけてみよつ」「心に強く感じたことを発表しよう」等、子供の立場を無視した授業

である。

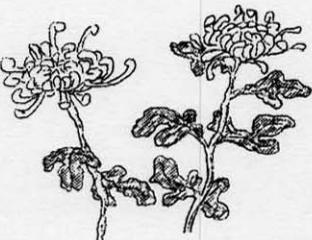


わくわくのクラブ — ビデオクラブの活動 —

龍美丘小学校 福田 育夫

やどりたちビデオ番組を作る樂しさを味わせようと始めたビデオクラブ。二台のカメラを一人程度に分かれた部員が使い、全校児童を対象とした番組「やどり」を作りました。クラブ発足当初は、機材にカメラを固定できず、画像のゆれが目立ったが、撮影、映像を繰り返したり、モニターテレビを使ったり、映像のゆれを検討していくうちに、短時間で、むだの少ない番組に少しずつ変わってきた。現代っ子である。機械操作を覚えるのが何より。ナレーションの言葉も、それについて明るくなったりした口調になってきた。

週一回のクラブ活動。しかも月曜日で半分は代休等で活動できない。そんなことから、計画の段階では、六コマ程度の短コマでとつくり、ナレーションをかぎりこんですぐ撮影。とにかく機械だから、使つ回数太多くなることを心がけた。現在は編集するところを省く、流し撮りをしているが、この方法でも、番組の構成の仕方を学ぶことは可能である。今後、様々なジャンルの番組づくりに挑戦していきたい。



自作TP作品一一三点もの応募

昭和六十年度、岡崎市小中学校自作TP作品の募集に対し、一三七点という多数の応募があった。

審査の結果、優れた作品八九点が入選し、県での自作TP作品コンクールに出品された。

応募数

教科	小	中	計
国語	13	4	17
社会	11	3	14
算数	27	7	34
理科	11	4	15
音楽	2	1	3
図工	2	3	5
美術			
保育	1	0	1
技家	4	5	9
英語	0	0	0
道徳	5	0	5
特活	9	1	10
計	85	28	113

ライブラリーだより

県自作視聴コンクール
締切迫る。

8ミリ、スライド、ビデオの自作作品を一括して、県へ応募します。積極的に参加してください。詳しくは、当ライブラリーに。締切は12月27日(金)です。
2学期は10月1日から配達。
3学期は1月1日からです。